様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：６４４０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2015
課題番号：２３７１０３１４

研究課題名（和文）チャム系住民とイスラームの関係に関する地域間比較研究

研究課題名（英文）A Cross-Regional Study of Cham Muslims

研究代表者
吉本　康子（Yoshimoto, Yasuko）

国立民族学博物館・民族社会研究部・研究員

研究者番号：５０５３５７８９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ベトナム、カンボジア、アメリカ西海岸、中国・海南島、タイ、マレーシアにおいてチャム系住民の実態に関する現地調査を実施した。具体的には各地域のチャムのコミュニティにおいて言語状況や宗教的知識の伝達媒体、モスクの外観や礼拝の様子などを観察し、可能な限り聞き取りを行い、ベトナム中部から各地に拡散して暮らすチャムのイスラーム的宗教実践についての実態把握に努め、その多様性およびエスニシティと宗教の関係に関する考察を行った。また、ベトナムやカンボジアにおいて独自に展開してきたチャム・バニのイスラーム的宗教実践の事例を通し、東南アジア大陸部におけるイスラーム的宗教実践の特徴が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This study was conducted in order to unerstand the actual conditions and the religious practices of Cham people in Vietnam, Cambodia, the US, Hainan Island of China, Thailand, and Malaysia. The research focus has been mainly on the language situations, the medias which have been used for the religious education, and the Islamic religious practicies of Cham Muslims in each area. Through this cross-regional study, the diversity as well as the dinanism of ethnisity and religious identity of Cham people was explored. Also thorugh the study of the Cham Bani's cases in Vietnam and Cambodia,it has been unrestood the characteristics of the Islamic religious practices that has been performed in Mainland Southeast Asia, Indochinese Peninsula.

研究分野：地域研究

キーワード：チャム　チャンパ　イスラーム　文書　宗教実践　地域間比較　ディアスポラ　東南アジア大陸部

１．研究開始当初の背景

2 世紀から 17 世紀まで現在のベトナム中部に存在したチャンパ王国は、東南アジアの中でも初期のイスラームの中心地であったとされる。チャンパのイスラーム受容やその住民である宗教実践については、仏領期から現在に至るまでいくつかの代表的な研究があり、チャンパへのイスラームの導入が 9 世紀から 11 世紀にかけてのアラブ人によるものと、16 世紀以降のマレー人によるものがあったこと、また、ベトナム中部ではチャンパ王信仰などとの融合によってベトナム中部のチャムのイスラームが独自の発展を遂げていること、などが指摘されてきた。さらに近年には、チャンパからカンボジア、マレーシアなどに移住したチャムや、ベトナム戦争による混乱によってベトナムやカンボジアからアメリカ西海岸などに移住した「チャム・ディアスポラ」に関する報告も公開されつつあり、各地域で暮らすチャムのアイデンティティの様相やネットワークの形成過程などが明らかになってきている。

しかしながら、チャムのイスラーム受容の過程やイスラーム的宗教実践についての基礎的な研究は未だ十分な蓄積があるとはいえず、また、チャムのエスニシティと宗教との関係を地域横断的に描写した研究は今のところ存在しない。その原因としては、１．チャムの故地であるベトナムで生じた政治的混乱などによって、現地語を用いた十分な現地調査が行われてこなかったこと、それによって２．各地域を比較するための調査項目が設定されず、現状として３．各地域でマイノリティとして暮らすチャムについての研究が地域分断的に行われてきた、と考えられる。

２．研究の目的

チャムは東南アジア大陸部を拠点とする人々であり、この地域のイスラーム化の過程および「周縁」におけるイスラーム的宗教実践の様態を探求するうえで不可欠の研究対象である。チャムの対象とする本研究の目的は以下の二点である。

（１）代表者が実施してきたベトナム国内におけるチャムの宗教実践およびアイデンティティの構築に関する文化人類学的な調査を継続し、発展させるために、現在のベトナムからカンボジア、マレーシア、タイ、ラオス、中国海南島およびアメリカ西海岸などに移住し、各地で暮らすチャム系住民のイスラーム的宗教実践についての基礎的な研究を行い、比較検討することで、イスラームの要旨とローカルな要素の交渉過程の多様性、および、チャム系住民の民族・宗教ネットワークの関係性について検証すること。

（２）　（１）を通じて、各地域におけるイスラームの展開に関する新資料を提示し、「イスラームの共通項」の多様性について明らかにするとともに、「イスラームの多様性と統一性」という概念について再考すること。

３．研究の方法

（１）調査の方法として、国内外における文献調査及びチャム系住民のコミュニティにおける現地調査を採用した。海外調査は、平成 23 年度にベトナム、アメリカ西海岸、平成 24 年度にカンボジア、平成 27 年度にベトナム、中国・海南島、タイ、マレーシア、シンガポールでそれぞれ行った。ベトナム、アメリカ、海南島、カンボジア、タイではチャム系住民の集住地区を訪問し、モスクの外観や礼拝の様子の観察、住民への聞き取り、文書など宗教的知識の媒体や関連資料を収集し、また、可能な場合は映像も撮影し、音声や動作についての資料を収集した。

ベトナム周辺にあるチャム系住民の居住地域

（２）考察の方法として、ベトナム国内の現状を基軸に、各地で収集した資料を分析し、比較するという手法をとった。主に以下の項目を設定した。

①国家による位置づけ（センサス上の分類、名称、人口比率など）
②エスニシティ（自称を含む呼称、「他者」との差異化の根源など）
③イスラーム受容の歴史的背景（再イスラーム化、イスラーム復興運動の影響等含む）
④現在のコミュニティ・モスクの数等。
⑤他地域のムスリムとの交流、ハッジの数等
⑥言語状況（チャム語の使用状況等。）
⑦礼拝空間：空間の使い方、モスクの配置のされ方、象徴性、モスクの装飾、壁のレリーフ、色（緑の使われ方）、男女の礼拝位置、地域の伝統的な建築様式との関わり等。
⑧制度、運営状況（信者間の階層などの有無、指導者の種類、名称・語源、役割）。
⑨モスクの中のメディア（知識の媒体、チャム写本の使用状況など）
⑩その他：服装小道具の種類、名称、使い方等。

４．研究成果

本研究課題の主な成果は以下の４点である。

（１） チャム系住民およびイスラーム的宗教実践の多様性。

本研究で対象としたチャム系住民は、歴史的にはチャンパの末裔として、言語的にはオーストロネシア語であるチャム語を母語とする人々として、宗教的には主にイスラーム（中国では「回教」、ベトナムでは（「Hoi Giao」）を信仰する人々として、先行資料や先行研究において捉えられてきた。本研究ではチャンパの故地であるベトナムだけでなく、カンボジア、中国、タイ、マレーシア、アメリカ西海岸などにおいても現地調査を行ったが、それぞれに地域におけるチャム系住民の歴史的な認識と自意識（チャンパの末裔としての認識）、言語（チャム語、チャム文字の使用状況）、イスラーム的宗教実践は多様に展開しているという当然の結果が明らかになった。とりわけ、地域を超えてチャム系住民に共通して用いられている読み書き言語が存在しないという点は、本研究を進める中で確認し得た点であり、「チャム」という漠然としたカテゴリーをどのように認識するかを考える上で重要な観点となった。言語をはじめ、各地で展開しているチャムと国家、イスラーム社会との関わり合い、宗教実践の多様性については、ベトナムとの事例との比較・検討を基軸に、今後も随時公表していく予定である。

（２）「チャム・バニ」のイスラーム的宗教実践に関する資料の蓄積。

ベトナムには、チャンパ王信仰やイスラームの要素等との融合によって独自の発展を遂げた「バニ」と呼ばれる信仰の形態があり、その信者であるチャム人はチャム・バニと呼ばれる。本研究課題の目的の一つは、代表者がこれまでに進めてきたチャム・バニのイスラーム的宗教実践に関する基礎的研究を継続し、その主要な信仰の諸要素を暫定的に導き出し、それらを地域間比較の基軸とすることである。この目的に関しては、本課題で実施した調査においてチャム・バニの伝統文書の一部を分析することができたことが一つの大きな成果である。チャム・バニの社会ではいわゆる刊本としてのクルアーンは使用されておらず、現在でも、世代を超えて継承されてきた写本がイスラーム的宗教知識の伝達媒体として用いられている。Durant による Les Cham Banis（①）など仏領期以降の先行研究にもチャム・バニの写本の存在について言及したものがあるが、その詳細はこれまで明らかにされておらず、本研究が対象としたアラビア文字とチャム文字の両方で書かれた写本を分析することは、チャンパのイスラーム受容の過程を現地資料の側から解明する手がかりとなるものであり、東南アジア大陸部の歴史の理解にとっても貴重な史料である。それと同時に、イスラーム的宗教実践の多様性や、「イスラーム」というカテゴリーの認識のあり方を考える上でも、伝統文書を基軸とするチャム・バニの宗教実践に関する基礎研究は極めて重要であり、今後も継続して進めるべき課題であることが明らかになった。

また本研究では、カンボジアに居住するチャム・バニないしコーン・イマーム・サーンと呼ばれるムスリムのグループについても、Mohamad Zain Musa による Islam as Understood and Practiced by the Muslims in Indochina（②）や、History of Education among the Cambodian Muslims（③）などの先行研究の分析、および、ウドンやオーリセイ村における現地調査を通して概要を把握することができた。コーン・イマーム・サーンは、チャム・バニと同じようなチャンパ王信仰などと融合した独自のイスラームを信仰する、というのが仏領期以降の学術的な認識であるが、本研究では、ベトナムのチャム・バニとの相違点に着目して短期の調査を実施した。その結果、チャンパを紐帯とするアイデンティティ形成の在り方、スンニ派ムスリムとは異なる集団的自意識の形成、モスクの外観、使用している写本などにチャム・バニとの類似性が認められたが、集団としてのアイデンティティを表出する儀礼、ムスリムとしての自意識、社会形成などには差異がみられることなどが明らかになった。ベトナムとカンボジアの「チャム・バニ」の比較、という意味においては貴重な事例であり、今後の成果公表に向けて、収集することができた資史料の分析を進めている。

（３）ベトナムにおける「再イスラーム化」

の影響と背景について。

地域におけるイスラーム受容の歴史という観点からは、チャム・バニのコミュニティを含むベトナム南部のチャム社会で生じたイスラーム覚醒運動の背景について、ある程度の資料の不足を補うことができた。1950 年代から 1970 年代初頭までに生じたこの運動は、ベトナムのメコンデルタに暮らすスンニ派のチャム系ムスリムの一部を中心に進められ、その背景には、マレーシアで生じたイスラーム復興運動の影響やカンボジアのチャムの影響があったと考えられている。近年のチャム社会とイスラームとの関係やネットワークを考察する上で重要な事例であるが、当時の資料をベトナムで入手することは容易ではない。本研究では、ベトナム戦争終結後にアメリカに移住したチャムの人々のコミュニティのうち、ロサンゼルス近郊にある 3 か所のモスクを中心に訪問し、1960 年代の状況についても聞き取りをすることができた。ベトナム共和国時代のイスラーム布教の状況と背景について、当事者を含む人々から話を聞くことができたのは大きな成果の一つである。あまり着目されることのないベトナムおよびカンボジアの再イスラーム化に関する資料の蓄積に向けて、今後の成果公開に向けて作業を進めている。

（4）チャム系住民とニューメディアの関係について。

本研究課題の目的は、まずは、ベトナム中部から様々な地域に移住したチャムの概要とイスラーム的宗教実践の状況を把握することであるが、それ以外にも、いわゆるチャンパを紐帯として形成されるチャムあるいは「チャム・ディアスポラ」としてのアイデンティティとイスラームの関係などについて考察することも目的とした。ベトナム、カンボジア、アメリカ、マレーシアにおける調査を通すことで、こうした考察を可能にするための情報を得ることができた。その一つが、各地域のコミュニティの人々が発信しているウェブサイト等に関する情報である。それらのメディアは、地域や宗教の違いを超えたチャムとしてのエスニシティに働きかける内容のものや、イスラームとの紐帯を前提とするものを含んでおり、言語、発信者の情報、内容、前提とする読者などを詳しく分析することで、エスニシティと宗教の関係を考察する際の資料となり得るものである。地域を超えてチャム系住民に共通して用いられている読み書き言語が存在しないという状況を踏まえたうえで、これらのメディアが果たす役割についても分析作業を進めていく。

以上の成果を踏まえた今後の展望は、まずは上述の成果の内容を国内外で継続して公表していくことである。その作業と並行して、本研究の内容をさらに発展させるための共同研究プロジェクトを企画し、助成金を申請する予定である。また、今回の研究では実現できなかったラオスおよびマレーシア北部におけるチャム系住民のコミュニティでの現地調査や、比較的長期の調査が必要とされている調査項目（社会組織、社会構造、宗教実践に関わる概念、観念、タブーなど定点調査や参与観察が必要となる領域）についても、可能な限り今後も継続して観察の対象としたい。

＜引用文献＞

① Durant, Les Chams Bani, *Bulletin de l'Ecole Francaise d'Estreme-Orient*, Ⅲ, 1903, 54-62

② Mohamad Zain Musa, Islam as Understood and Practiced by the Muslims in Indochina, in *Islamiyyat*, Jil.25, No.1, 2004, 45-60

③ Muhamad Zain Musa, History of Education among the Cambodian Muslims, in *Malaysian Journal of History, Politics & Strategic Studies*, Vol.38(1), 2011, 81-105

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

① 吉本康子、チャムの伝統文書にみるイスラーム的宗教知識－ベトナム中南部のチャムが継承する写本及び目録の分析を通した予備的考察、アジア文化研究所研究年報 - 二〇一三年、東洋大学アジア文化研究所、査読無、第四八号、2014、297-304
URL：http://id.nii.ac.jp/1060/00006380/

② YOSHIMOTO Yasuko, A Study of the Hoi Giao Religion in Vietnam: With a reference to Islamic religious practices of Cham Bani, in "De-institutionalizing Religion in Southeast Asia: Minority Perspectives", Southeast Asian Studies, 査読有、Vol.1/Nol.3, 2012, Kyoto University, 487-505
URL:http://englishkyoto-seas.org/2014/02/vol-1-no-3-yasuko-yoshimoto/

〔学会発表〕（計３件）

① YOSHIMOTO Yasuko, Possession Ritual in Contemporary Society: Religion and Modernity amongst the Cham Vietnamese, in 'Session 2 Bodies in Ritual', CSEAS-ARI Joint Workshop on Reassessing Ritual in Southeast Asian Studies, 25 February 2013, Inamori Memorial Hall,

CSEAS, Kyoto University（京都府京都市）

② 吉本康子、『公定のムスリム』とイスラーム的宗教実践‐ベトナム中南部チャム・バニの社会における『クルアーン』朗誦、日本文化人類学会第 46 回研究大会・分科会「映像資料にみるイスラーム的宗教実践‐地域間比較研究における『家族的類似』概念の可能性をめぐって」（代表者・吉本康子・阿良田麻里子）、2012 年 6 月 23 日、広島大学（広島県東広島市）。

③ YOSHIMOTO Yasuko, One side of Islamization of the Cham: Through a study on Islamic Manuscripts of Cham Bani in Vietnam, in ‘Cham, Chinese, and Islamic Influences on the Cultural History of South-Central Vietnam’, Organized by Nhung Tuyet Tran, Association for Asian Studies Annual Conference, 15 March 2012, University of Toronto, Canada（カナダ・トロント）.

〔図書〕（計１件）

① 吉本康子　他、風響社、多配列思考の人類学‐差異と類似を読み解く（白川千尋・石森大知・久保忠行編）、2016、75-94

６．研究組織

(1)研究代表者

吉本　康子（YOSHIMOTO Yasuko）

国立民族学博物館・民族社会研究部・外来研究員

研究者番号：50535789